石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第457号　令和3年11月1日発行

うるはしきもの めでたきわざ
—北陸の芸術院会員・人間国宝—

REFLECTION —光の記憶—　松崎十朗展

三谷吾一《潮風》1987年　日本芸術院蔵
—企画展「うるはしきもの めでたきわざ」より—

松崎十朗《光の記憶》2021年
—特別陳列「REFLECTION —光の記憶—　松崎十朗展」より—

中国憧憬 —周文の《山水図》と唐物—【前田育徳会尊經閣文庫分館】

石川の文化財 —国宝・重文・県文・市文—【古美術】

優品選Ⅰ【近現代工芸】

優品選【近現代絵画・彫刻】

- 土曜講座を開講します（11～3月）
- ミュージアムショップのおすすめグッズ
- 学芸室の人々
- 11月の行事予定
- アラカルト　ただいま展示中

企画展（第7～9展示室）

うるはしきもの めでたきわざ

―北陸の芸術院会員・人間国宝―

主催／石川県立美術館　共催／北國新聞社

後援／NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

11月7日（日）～12月5日（日）　会期中無休

日本列島のほぼ中央に位置する、石川・富山・福井の北陸三県は、寒暖の差があり、一年を通して湿度が高く、工芸作品の制作に適した環境です。また東京や京都など、文化的中心地から距離も近く、優れた美術工芸品が集まり、優れた技術を持つ作家が集まる土地でもあります。

石川県立美術館はこれまでにも、石川県ゆかりの芸術院会員や、重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝の展示を企画し、平成十五年（二〇〇三）には「北陸の人間国宝」、平成二十八年（二〇一六）には「工芸にみる石川の巨匠」を開催しています。本展は開催中の国際北陸工芸サミットのフィナーレを飾るものとして、改めて北陸の芸術院会員と人間国宝の業績を紹介するものです。

今回は、日本芸術院会員就任年、および重要無形文化財保持者認定年に沿って、三十五名の作家による、当館初出品作を含む、一〇〇点余りの作品を次の通り三室に分けて展示します。

第一室は松田権六、山崎覚太郎、蓮田修吾郎、初代魚住為楽、石黒宗麿、前大峰、氷見晃堂、赤地友哉、木村雨山、松原定吉の十名、第二室は二代浅蔵五十吉、十代大樋長左衛門、八代岩野市兵衛、金森映井智、羽田登喜男、隅谷正峯、大場松魚、寺井直次、塩多慶四郎、三代徳田八十吉、川北良造、前史雄、九代岩野市兵衛、西出大三の十四名、第三室は三谷吾一、武腰敏昭、吉田美統、三代魚住為楽、小森邦衛、中川衛、二塚長生、中野孝一、大澤光民、灰外達夫、山岸一男の十一名です。日本を代表する北陸の巨匠の「めでたきわざ」による、「うるはしき」作品をご覧ください。

◆観覧料

一般：一〇〇〇円（八〇〇円）
高校・大学生：八〇〇円（六〇〇円）
高校生以下：無料
※（　）内は65歳以上、および20名以上の団体料金
※2階コレクション展観覧料を含みます
※身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

◆関連行事

特別講演・トークセッション
日時：11月7日（日）13時30分～16時
講師：青柳 正規（当館館長）
ゲスト：室瀬 和美 氏
（重要無形文化財「蒔絵」保持者）
会場：当館ホール
聴講無料
※聴講には申込が必要です。詳しくは国際北陸工芸サミットin石川ウェブサイト（https://kogei-ishikawa.jp/）をご覧ください。

工芸技術記録映画上映会
日時：①11月14日（日）、②11月21日（日）、③12月5日（日）各回14時から2時間程度
内容：①小森邦衛・二塚長生・中野孝一
②前史雄・吉　田美統・大澤毘
③松田権六・大場松魚・寺井直次
会場：当館ホール

学芸員による土曜講座
①「北陸の芸術院会員・人間国宝～その1～」
②「北陸の芸術院会員・人間国宝～その2～」
日時：①11月13日（土）、②11月20日（土）
各回13時30分～15時
会場：当館講義室
聴講無料、申込不要

0才からのファミリー鑑賞会オンライン
日時：①11月20日（土）10時～11時
②11月21日（日）13時30分～14時30分
15時30分～16時30分
講師：冨田 めぐみ 氏（NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事）
※詳細は、後日当館ウェブサイトにて公開します。

子どもツアー
日時：11月14日（日）10時30分～11時
（受付開始10時）
※参加無料、保護者2人目から要観覧料

石黒宗麿《刷毛目双魚文鉢》
射水市新湊美術館蔵

松原定吉《長板中形「水に鯉」》
富山県水墨美術館蔵

特別陳列（第4展示室）

REFLECTION ―光の記憶―　松崎十朗展

10月23日（土）～12月5日（日）　会期中無休

日常に何気なく存在する「無機質で幾何学的な空間」。気にもとめられず忘れ去られるそのような光景を瞬時に切り取る眼が、松崎十朗という日本画家を八〇～九〇年代画壇の前衛へと押し出しました。

一九六〇年、金沢に生まれた松崎十朗は、金沢美術工芸大学、同大学院で日本画を学びます。在学中より、現代美術展「最高賞」、京展「市長賞」等を受賞、また大学院修了の年には、日春展で「奨励賞」を受賞するなど、早くから衆目を集める存在となります。

初期から日展を主たる活躍の場としながら、その他の美術展、個展、グループ展などで発表。二〇一六年からは、活動の拠点を東京から金沢に移し、母校金沢美術工芸大学で後進の指導にも当たっています。

松崎の制作に通底するのは、「一切は不変のものでなく、常に変化し続ける」との無常観です。人工的で無気質な光景でさえ、色や光の変化に伴い刻一刻とその姿を変えていく。不変ではない光景だからこそ、美を感じる。そのような無常観は、日本や東洋の伝統的画題や精神性に通じ、まさに現代の日本画です。近年は瞬間の光景を切り取りながらも、そこに永遠性を見出すかのような作画を展開しています。特に砂浜に消えゆく波跡と寄せては返す波の姿は、刹那と永遠の象徴でもあるようです。そして、描かれるかすかな光は、画家の内省と記憶の投影ともいえるでしょう。

約四十年におよぶ画業の内、今世紀に入ってからの日展出品・受賞作に新作を交えた十五点で、日本画家松崎十朗の静かなる内面世界を堪能していただきます。

松崎十朗《静かな時》
2018年

学芸員の眼

これまで、特別陳列でひとりの作家を採り上げるときは、回顧展の性格が強くなりがちでした。一堂に並んだ代表作を前に、作家も鑑賞者もその画業を振り返り今後を展望する。そんな空間を提供することが多かったわけですが、今回は四十年の画業のうち、二十一世紀に入ってからの作品を作家本人がチョイスしました。「若き注目の作家」時代の斬新な視点も、とても面白く捨てがたいのですが、作家が選んだのは「面白み」ではなく、長い創作活動のすえに辿り着いた静かな「深み」であったようです。二回の日展特選を経た二〇〇一年ころからの作画は、視点の趣向性を追求しながらも、徐々に内省を深めてゆきます。本展ではそんな作家の心の軌跡を、そっとなぞっていただきたいのです。きっと、進化と深化を続けるひとりの日本画家について、知ることができるでしょう。

松崎十朗《校庭》
2001年

前田育徳会尊経閣文庫分館

中国憧憬

―周文の《山水図》と唐物―

10月23日(土)～12月5日(日)　会期中無休

古来より、わが国の歴史は大陸である中国から影響を受けています。政治外交はもとより、宗教・文化まで広く及び、いつの時代も大陸である中国に対し憧れのまなざしを向けていました。

中国の絵画において、最上の画題とされたのが「山水」であり、描くにあたっては「人物画」に次いで難しいとされました。自然の景色であることはもちろん、神仙の棲む聖域であり、隠遁の象徴、理想郷でもあったのです。

室町時代前期に活躍した天章周文は、この時代を代表する禅僧画家で、幕府の御用を務めていました。京都・相国寺にて寺宝を管理する立場にあったことから、舶載された中国画を多く目にしたのでしょう。応永三十年(一四二三)、幕府の朝鮮派遣使節に加わった周文が、朝鮮で山水画を描いたところ、絶賛されたと伝えられています。

周文に関する研究は、大正から昭和初期に進み、山水を描いた二点が国宝に指定されています。郭熙・馬遠・夏珪など、中国を代表する山水画家の特徴をうまく融合させた点が特徴で、室町時代の詩画軸の多くが「周文筆」との伝承を持つように、「室町時代の水墨画の先駆者」と位置づけられています。「雪舟の師」にあたることから、江戸時代においてもその関心は高く、前田育徳会所蔵の重要文化財《四季山水図》屏風の両脇には「周文筆　探幽斎記」と狩野探幽による極めが記されます。

本特集では、周文の《四季山水図》屏風をはじめ、前田家が江戸時代に収集した文房具などの唐物を紹介します。

重要文化財《四季山水図》周文(右隻)

古美術(第2展示室)

石川の文化財

―国宝・重文・県文・市文―

10月23日(土)～12月5日(日)　会期中無休

毎秋恒例の展示となっている「石川の文化財」。本展示は文化庁が定める「文化財保護強調週間」(毎年十一月一日から七日までの一週間)にあわせて開催され、国宝や重要文化財、県指定文化財など、県内の貴重な文化財を展示する機会となっています。

展示作品の中から、石川県指定文化財《光明本尊》を紹介します。光明本尊は、浄土真宗において、独特の本尊として礼拝の対象とされます。本作の画面には、大きく「南无不可思議光如来」、「南無阿弥陀仏」、「帰命盡十方无导光如来」という阿弥陀如来の三種の名号が書かれ、向かって左に天竺(インド)・震旦(中国)の先徳、右に日本の浄土教祖師を描きます。古くは九字名号(南无不可思議光如来)を中央幅とし、左右に「三朝浄土教祖師先徳念仏相承図」という浄土教の祖師先徳を描いた二幅を付す形式でしたが、三幅を一つの画面にまとめた光明本尊が受容されていきました。本作は県内の光明本尊の中でも、裏書によって年代を確認できる唯一の作例で、初期真宗教団の布教活動を語る遺品としても注目されます。

また今夏、惜しまれつつも会期短縮となってしまった企画展「加賀百万石　文武の誉れ」展に出品の国宝《剣　銘吉光》を再度展示いたします。常設展示の《色絵雉香炉》と共に、県内の国宝が一堂に会する機会となります。夏の企画展で見逃してしまった方は、ぜひこの機会にご鑑賞ください。

石川県指定文化財《絹本著色光明本尊》
個人蔵

近現代工芸（第5展示室）

優品選Ⅰ

10月23日（土）～12月5日（日）　会期中無休

近現代工芸では今回企画展示室で開催される「第六十八回日本伝統工芸展金沢展」や企画展「うるはしきもの めでたきわざ―北陸の芸術院会員・人間国宝―」と合わせて優品選Ⅰ・Ⅱと題し、企画展に関連する作品をご覧いただきます。

今回の優品選Ⅰは、陶芸では初代徳田八十吉窯で九谷の絵付を行った日本芸術院会員の洋画家中村研一作《菊花図皿》や、竹田有恒作《釉裏金彩稲穂文鉢》を。漆芸では人間国宝の大場松魚作《平文光輪箱》、板谷光治作《沈金素彫猫文漆箱》を。染織では人間国宝の羽田登喜男作《友禅白地総菊文振袖「美の饗宴」》、中山修三作《友禅婦人室用衝立》を、金工は加賀象嵌の高橋介州作《加賀象嵌孔雀香炉》、《加賀象嵌鴛鴦香炉・香合》を。木工は人間国宝氷見晃堂作《桐造寄木象嵌之筥》を、人形では下口宗美作《木彫加彩人形「つつ井筒」》を、截金では人間国宝西出大三作《截金彩色合子「花守犬」》を展示します。

第六十八回日本伝統工芸展金沢展では、この優品選Ⅰの展示作品に合わせて「こども鑑賞ガイド」を作成しています。お子様とご一緒での鑑賞の機会がございましたら、伝統工芸展鑑賞ガイドと合わせてご覧頂けると、思わぬところで企画とリンクし、また違った鑑賞の仕方に出会えるかもしれません。

コロナ禍、この作品を目にする頃はどれだけ穏やかな日常が戻っているのでしょうか。静かに語りかける作品を前に、ゆっくりと作品との対話を楽しんでいただきたいと思います。

下口宗美《木彫加彩人形「つつ井筒」》

近現代絵画・彫刻（第3・6展示室）

優品選

10月23日（土）～12月5日（日）　会期中無休

十二月はじめまでの近現代絵画・彫刻展示について紹介します。

日本画では特別陳列「松崎十朗展」にちなみ、金沢美術工芸大学で教鞭を執った作家、学んだ作家達で金沢美術工芸大学日本画の系譜をコレクションから紹介します。同大学最初期の教員である畠山錦成の《澄秋》から、近年退官した仁志出龍司《ベンチ》、そして西山英雄《残照》など、金沢美大が生んだ日本画家の精華の一端をご覧ください。

彫刻でも、戦後の混乱の中で金沢美術工芸専門学校（現・金沢美術工芸大学）の創立に尽力した長谷川八十による《軍鶏》、卒業生であり教授としても関係した石田康夫による第3回改組日展特選受賞作《昇華》をご覧ください。

油彩分野では、秋の深まりを感じる作品を展示します。伊東哲《読書》は、三人の女性が一冊の本を読む様子を描きます。寄り添って読書する様子から、親密さが伝わります。作者は金沢市に生まれ、東京美術学校西洋画科で学びました。官展で入選を重ね、台湾では総督府嘱託として嘉南大圳のダム工事を記録、北京では教鞭をとりました。

版画には、インクを塗布する版面が凸・凹・平版など、面として使い分けた版の型式があります。凸版を代表するのは木版画、版材にくぼみをつくってそこにインクをつめる版の代表は銅版画、自由な描画が魅力のリトグラフは平版です。それぞれの版材でいろいろな技術を駆使し、版の魅力を競い合って作り上げた絵画をお楽しみください。

伊東哲《読書》

土曜講座を開講します（11～3月）

5月より開講している土曜講座について、11月以降の予定をお知らせいたします。
当館学芸員が日ごろ研究しているテーマや、開催中の展覧会に関連したテーマで行う講座となっております。お気軽にご参加ください。
※新型コロナウイルス感染症の影響で日時などを変更、または中止する場合がございます。

時間：毎回午後1時30分から3時まで　事前申し込み不要、聴講無料

月／日	テ　ー　マ	担　　当
11月13日	北陸の芸術院会員・人間国宝 ～その1～	奈良　竜一
11月20日	北陸の芸術院会員・人間国宝 ～その2～	寺川　和子
12月11日	浮世絵にみる『忠臣蔵』	村上　尚子
12月18日	コレクション展（近現代工芸）　スライドトーク	西　ゆう子
1月15日	仏伝図の世界ー涅槃図	鈴木　彩可
1月22日	近代日本の野外彫刻	竹内　　唯
2月19日	龍村平蔵と名物裂復元	寺川　和子
2月26日	近代版画	深山　千尋
3月12日	日本画名作秘話	前多　武志

ご参加にあたっての注意事項

① 来館時にサーマルカメラによる体温チェックを行います。
　体温が37度5分を超える方の参加はご遠慮いただきます。
② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いいたします。
③ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。
④ 密集を避けるため、前後両隣の席を空けての着席をお願いいたします。
⑤ 会場での会話は極力ご遠慮ください。

学芸室の人々

村上 尚子（学芸第一課 学芸専門員）

できの悪い卒業論文を提出し、大学生活も卒業を待つのみとなった二十年以上も前の年末の話です。京都から帰省しないまま誕生日を迎えた私のもとに、今は亡き父からプレゼントが届きました。茶封筒の中には、赤いモンブランの万年筆が一本。卒業後の進路も決まらないわが身には分不相応そのもので、まるで「もっと勉強せぇよ」と叱咤されるようでした。初詣には近所の北野天満宮にて「学芸員になりたい」と、神頼みです。

それから八年後、北野天満宮へ「承久本」と呼ばれる国宝の《北野天神縁起絵巻》を返却に行くことになりました。ご利益はもちろん、どんな出会いにも、感謝。モンブランの万年筆は、いつでもお礼状が書けるよう、持ち歩いています。

ミュージアムショップのおすすめグッズ

当館のオリジナルグッズ、今回はTシャツについて紹介します。

それぞれ、国宝《色絵雉香炉》（左）、古九谷の《色絵海老藻文平鉢》（右）があしらわれたTシャツです。イラスト化された雉香炉、胸で元気に跳ねるエビが大胆なデザインです。密かな売れ筋グッズで、特に「エビ」は在庫僅少なので、ぜひお早めにゲットしてください！

価格は、雉（SMLサイズ）2500円、エビ（Sサイズ）2200円です。

通信販売（送料別）も承ります。お問い合わせは以下の宛先までどうぞ。

石川県立美術館総務課　ミュージアムショップ担当
☎076-231-7580

11月の行事予定

■企画展「うるはしきもの めでたきわざ―北陸の芸術院会員・人間国宝―」関連行事　いずれも美術館ホールにて　無料

7日（日）
「青柳館長による特別講演・トークセッション」13時30分～16時
※事前申込が必要です（詳細は2ページ）

14日（日）
21日（日）
「工芸技術記録映画上映会」各日14時～16時　※申込不要

■子どもツアー（企画展「うるはしきもの めでたきわざ―北陸の芸術院会員・人間国宝―」関連行事）　10時30分～11時

企画展の見どころや楽しみ方を、学芸員がわかりやすくお話します。
対象：小・中学生（先着20名）
保護者の方と一緒にご参加可能です。
料金：無料（保護者の方は、2人目から要観覧料）
受付：10時より企画展示室前にて

14日（日）

■土曜講座　13時30分～15時　美術館講義室にて　無料

13日（土）
「北陸の芸術院会員・人間国宝 ～その1～」
学芸主任　奈良竜一

20日（土）
「北陸の芸術院会員・人間国宝 ～その2～」
学芸第二課長　寺川和子

■0才からのファミリー鑑賞会オンライン
20日（土）10時～11時
21日（日）13時30分～14時30分
15時30分～16時30分

赤ちゃんからが対象の、美術館デビューにぴったりな鑑賞会。
今回はズームを使用してオンラインで工芸作品を鑑賞します。
対象：0才から小学生までのお子さんとご家族（定員各回6組）
料金：無料
受付：事前申込（詳しくは美術館公式ウェブサイトまで）

20日（土）
21日（日）

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。
最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

アラカルト ただいま展示中

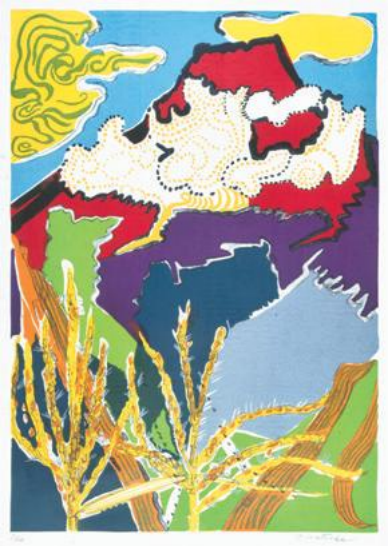
à la carte No.56

《すすきと富士》すすきとふじ

51.0×35.8cm
昭和53年(1978)

片岡球子 かたおか・たまこ

明治38年(1905)～平成20年(2008)



片岡球子は、本年度春の企画展「かお・すがた・こころ」展に出品の歴史上の人物を描いた「面構シリーズ」をはじめとする、日本画の道を歩み続けた画家です。版画の摺師からの勧めではじめた版画制作ですが、植物画、人物画、風俗画などをテーマに制作していく内に次第に版画に心酔し、富士山をテーマとした作品を定番とした版画制作を続けました。

片岡にとっての版画制作は日本画の延長ではなく、特にリトグラフの制作には、四十年以上携わっています。リトグラフはギリシャ語のリト(石)に描かれたグラフ(図)という意味で、石灰石の版に油性分のあるもので描いた図を水と油の反撥作用を利用して印刷する技法です。版材を石板にした仕上がりにこだわり、必ず自ら絵筆を取って版に描き、摺師との共同作業で仕上げています。

片岡は頻繁に時間を割いて富士スケッチの旅に出かけ、西湖、青木ケ原、富士宮、河口湖、芦ノ湖など様々な地点から、樹海、湖や菊、桜、梅などの植物、そして、松原、太陽、雲などと合わせて富士山を描いています。本作では、晩夏から初秋にかけての早朝に見ることができる赤富士にすすきを配した構図で、片岡の鮮烈な色彩と力強い筆触に集約して描かれています。何作も制作している富士山のリトグラフの作品ですが、片岡自身は単に名山の姿や形を描いているのではなく、風景を描く際も人物と同様に捉え、富士山との対話をもとに制作していると語っています。

次回の展覧会

令和3年12月9日(木)
～令和4年1月23日(日)

前田育徳会尊經閣文庫分館	第2展示室
赤門が迎えたお姫様 ―溶姫の絵画と婚礼調度―	浮世絵にみる『忠臣蔵』

第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	1F企画展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	優品選Ⅱ 【近現代工芸】	現代の書 【近現代書】	再興第106回院展 金沢展 〔12/9～22〕

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　370円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
11月1日は第1月曜により
コレクション展示室無料の日

11月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後6:00 年中無休

11月は無休で開館しています

広告
「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？
石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ
郵送配布!! 3,000部発行
ターゲットを狙った 知名度向上
県立美術館発行の 信頼度の高い広報媒体
お問い合わせは ☎092-716-1401
株式会社ポープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第457号(毎月発行)
2021年11月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。